

# 岡山市 埋蔵文化財 発掘調査 速報展

とき 平成18年10月30日(月)～11月1日(水)  
ところ 岡山市役所 1F 市民ホール

## 南坂15号墳他 岡山市下足守

南坂古墳群は、西に足守平野を見下ろす北に延びる尾根上に位置します。今回は南坂古墳群が土砂採取の対象となったため調査を行いました。

その結果、南坂15・16号墳とともに、小規模な円墳1基(26号墳)・方墳3基(24・25・27号墳)・土器棺墓1基を発見し、発掘調査を行いました。

16号墳の墳頂部では、未盗掘とみられる埋葬施設を3基確認しました。特に一番北側にあった箱式石棺は、板石を囲ったあと隙間を粘土を充填し、さらに頭部の側石を外側から角礫で挟み込み、蓋石を置いた後も石棺と蓋石の間を粘土を充填し埋めるというような丁寧かつ念入りな封印がなされており、石棺内からは頭蓋骨を赤色顔料で真っ赤に染めた、保存状態の良い女性人骨が1体、頭部を東に向けた状態で出土しました。しかし副葬品等は全くありませんでした。

また27号墳の箱式石棺からは、男性の人骨1体と鉄剣が、2本出土しました。

## 日近醫王谷古墳 岡山市日近

岡山市の北西部、足守地区にある古墳で、ほ場整備のために2005年10～12月に調査しました。墳丘は後世の開墾によってほとんど削平されていたものの、墳丘東側に形成された周溝とわずかに遺存していた盛土から判断して、直径13mの円墳と考えられます。

古墳の中央には、横穴式石室[長さ8m、幅2m、高さ2m]がありましたが、かなり壊れていました。石室内からは銀環をはじめ、須恵器の杯身・杯蓋・高杯・平瓶・甕・台付椀のほか、鉄鏃・鉄釘・馬具等の鉄器が出土しました。古墳の築造年代は出土した須恵器から6世紀後半と考えられ、7世紀前半まで追葬されたようです。

また石室やその周辺から、古代から中世の土師器や鋳型(溶かした鉄を入れる粘土の型)・炉壁・鉄滓が出土していることから、この辺りでは鍋や釜といった鉄の鋳物製品がつくられていたのかもしれない。

## 南方(済生会)遺跡 岡山市国体町

発掘調査により、弥生前期の溝、弥生前期～中期の柱穴・土坑、弥生中期の竪穴住居、古墳～古代の溝・土坑などを検出しました。

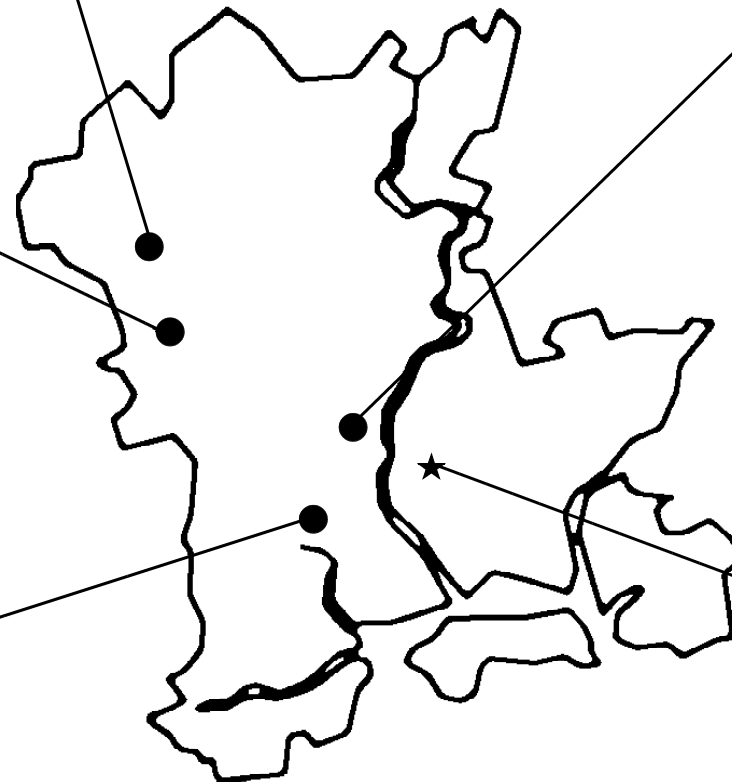
弥生時代前期の溝3条は同心円状に掘られており、集落の外側を取り囲む環濠と考えられます。溝で囲まれた範囲は不明ですが、全国的には直径60m～100m程度の規模が一般的です。県下では弥生前期の環濠集落である岡山市百間川沢田遺跡、矢掛町清水谷遺跡の2遺跡もこの範疇にありますが、この2遺跡の環溝はいずれも1条で、弥生時代前期に多重の環溝が営まれている集落は、全国的にもあまり例がありません。

弥生時代中期には、これらの環溝をうめたてて集落域を拡張したようで、多数の柱穴は掘立柱住居や倉庫であったと考えられます。竪穴住居跡は5棟見つかっており、このうち2棟は建て替えており、1棟は火災を受けていました。このほかにも、金属やガラスの溶解などのような高い火力を必要とする生産活動を行った際の廃棄物?の白灰を埋めた大型土坑などもみつかっています。

## 大供本町遺跡 岡山市大供本町

鹿田荘は藤原氏の荘園として有名で、古文書にも登場しますが、その場所すら、岡山市鹿田町周辺といわれながらよくわかっていません。大供本町遺跡は鹿田荘西部にあたると思われる、今回は道路建設に伴い調査しました。その結果、平安～江戸時代の柱穴や井戸、溝などの遺構や、土師器や須恵器、陶磁器などが見つかりました。

これらのうち注目されるのは溝です。大供本町遺跡より北側の区画の基準は真北です。しかし、調査で見つかった溝は真北から東へ10度ほど傾いています。これは鹿田町周辺の区画の方向と同じで、この区画が傾いている範囲が、当時の鹿田荘の範囲ともいわれています。溝の底からは9世紀中頃の土器が見つかったことから、この鹿田町特有の区画は平安時代の初め頃にはあったと考えられます。また、緑釉陶器や、中国から輸入された当時のブランド品である青磁・白磁といった普通のムラでは見られないものも出ています。この辺りに荘園の管理施設のようなものがあつたのでしょうか。

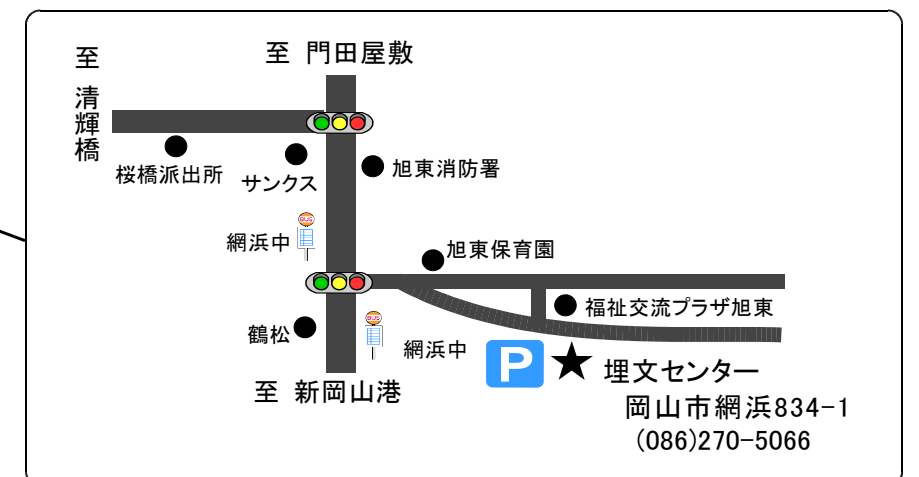


もっと知りたい! というかたは...

## ○埋蔵文化財発掘調査報告会

とき 平成18年11月11日(土) 13:30～15:00  
ところ 岡山市埋蔵文化財センター

に、ぜひお越し下さい!



速報展で展示した遺跡・遺物のことを、発掘調査の担当者がくわしく説明します。